

甲状腺癌の検査 について

日本臨床検査専門医会
村上 正巳



■甲状腺はどこにありますか？

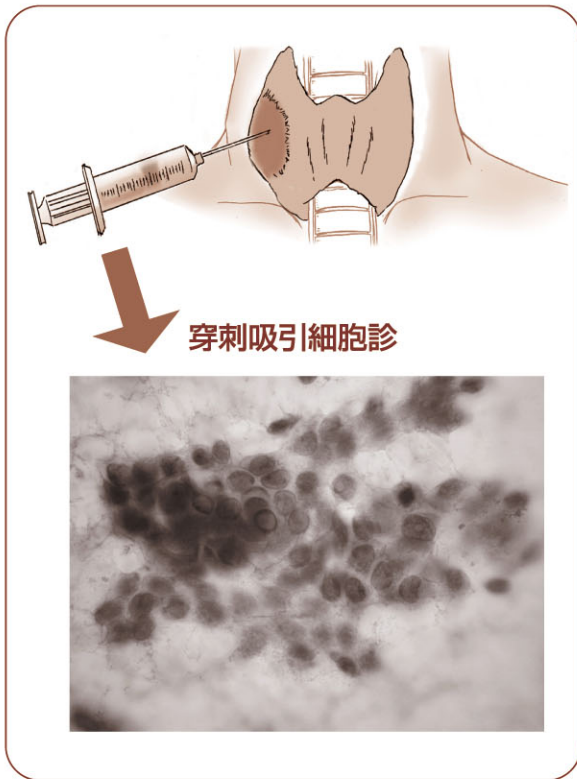
頸の前方にあり、蝶のような形をしています。唾を飲み込むと上に持ち上がります。男性では一般にネクタイの結び目あたりにありますが、女性ではそれより少し上になります。甲状腺が腫れてくると目で見てわかるようになります。

■甲状腺の病気にはどのようなものがありますか？

単に甲状腺が腫れる単純性甲状腺腫、動悸、暑がりや体重減少などの甲状腺機能亢進症状をきたすバセドウ病、寒がり、疲れやすい、体重増加などの甲状腺機能低下症状をきたす橋本病、甲状腺の痛みと発熱をきたす亜急性甲状腺炎、良性の甲状腺腫瘍、悪性リンパ腫、甲状腺癌などがあります。

■甲状腺癌の種類にはどのようなものがありますか？

甲状腺癌には、乳頭癌、濾胞癌、髄様癌、未分化癌があります。乳頭癌は最も多くみられるもので、リンパ節転移をきたしやすいという特徴があります。濾胞癌は、血行性転移をきたしやすいもので、良性の甲状腺腫瘍との区別が難しいことがあります。髄様癌は



特殊な癌で、他に副腎などの腫瘍を合併することや、遺伝するものもあります。未分化癌は悪性度が高い癌で、痛みを伴って急速に大きくなります。

■甲状腺癌の症状にはどのようなものがありますか？

甲状腺が腫れてきて自分で気づくこともありますが、健診などで指摘されることもあります。甲状腺の一部が部分的に腫れ、一般に左右差のある腫れ方をします。急激に腫れると痛みを伴うこともあります。甲状腺癌がリンパ節に転移して頸のリンパ節が腫れることや、肺や骨に転移して発見されることもあります。甲状腺の後ろを走っている反回神経が傷害されると声がかすれることもあります。また、偶然に頸動脈超音波検査などで発見されることもあります。

■甲状腺癌の検査にはどのようなものがありますか？

甲状腺超音波検査でどのような種類の甲状腺の病気があるかある程度わかりますが、最終的には腫れている部分の細胞を採ってきて観察し、癌であるかどうか診断します。一般に、注射針を使って細胞を採って顕微鏡で観察する穿刺吸引細胞診という方法が用いられます。これは外来でも簡単に行える検査です。

■甲状腺癌の治療にはどのようなものがありますか？

一般に手術による治療が行われますが、甲状腺癌の種類や進み具合によっては放射線治療や化学療法なども行われます。